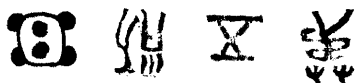


☆第五列「7」に関するお問い合わせは下記のみです。
 〒020 盛岡市中野1-10-31 金野吉晃 Phone 0196 (52) 4673
 〒166 東京都杉並区高円寺南4-41-7 氷川社2号室 藤本知男
 〒602 京都市上京区御前西21大東町103 九重嘉之 Phone 075 (463) 7723

Produced by



5C-00 Meet the 5th Column! / Various



SIDE A

1. Performance No. 4 (from Bide Garage Concert)
2. Balance of Improvisitation/Geso+岡
3. 神ならぬ身の去勢された.../Za-boot ones
4. せかされて/園田with Geso
5. from the live performance/Ultra Bide
6. 赤い朝ごはん/Geso+Onnyk+野性
7. Scepticism/螺旋階段
8. from the solo performance/佐藤隆史

* A面のイントロはSW/イズです。

SIDE B

1. DNA (Dynamic Noise Association)/Home Made Noise
2. Barom Cross/北ネオ一様
3. 五列節/コウイロウ
4. マコチム/Jojo
5. Fan Bennink/野性
6. ワンコトはよき秘密(ポールモリアのイ/表現)/中坪
7. King-Kang/小玉俊文
8. Untitled/達
9. コルマント、ヒポソとバイルトカウターナを
事としたマシオネの断片/中島達夫
10. Untitled - Untitled Medley/阿部知博
11. Automatic Music/Event Accident

*This is the first Dai5retsu-Tape; including 19 or 20 fragments of beautiful ugly noise which were made by 29 Non-Artists gathered from various places.



Produced by:

5C-00 Categorized Talerians / Various



SIDE A

1. Performance No. 4 (from Bide Garage Concert)
2. Balance of Improvisitation/Geso+田
3. 神ならぬ身のお世なされた.../Za-boot-ones
4. セカされて/園田with Geso
5. from the live performance/Ultra Bide
6. 赤い朝ではん/Geso+Onnyk+野性
7. Scepticism/蜚旅踏段
8. from the solo performance/佐藤隆史

* A面のイントロはSWイズです。

SIDE B

1. DNA (Dynamic Noise Association)/Home Made Noise
2. Barom Cross/北村一樹
3. 五列節/コウイチロウ
4. マコチム/Jojo
5. Fan Bennink/野性
6. ワン・コトはよ3秘密(ポル・モリア的イノ毛現)/中坪
7. King-Kang/小玉俊文
8. Untitled/彦
9. コルマンドはポンとバイノルト・カント・ナを
勢としたマシオンの断片/中島達夫
10. Untitled - Untitled Medley/阿部知博
11. Automatic Music/Event Accident

*This is the first Dai5retsu-Tape; including 19 or 20 fragments of beautiful ugly noise which were made by 29 Non-Artists gathered from various places.

SIDE A

1. Performance No. 4 (from Bide Garage Concert III): fade in - fade out
:Bide(el-b, echo machine operation), Takat'chan(ac-g), Geso(el-g), Kan-ki(chant), Ishibashi(syn, per), Yasei, Kouichiro, Bei-san(per).
Recorded 18 June 1978 at Bide's garage, Kyoto. Stereo.
2. Balance of Improvisation: cut in - fade out
:Geso(ac-g), Oka(per).
Recorded 15 October 1978 at Geso's room, Kyoto. Mono.
3. Kami naranu mi no kyosei sareta... / Za-bootones: fade in - fade out
:Sophie(el-p), Onnyk(voice, ac-g), Jojo(voice), Yasei(el-g, howling), Geso(voice, per).
Recorded 26 December 1978 at Jujiya Uzumasa Studio C, Kyoto. Stereo.
4. Sekasarete: fade in - fade out
:Sonoda(el-g, effector, tape), Geso(odds & ends).
Recorded 7 February 1979 at the kitchen of Sonoda's, Matsudo. Stereo.
5. from the live performance / Ultra Bide: cut in - cut out
:Bide(el-g, voice), Kouichiro(key), Jojo(el-b), Shin'nosuke(ds).
Recorded 30 December 1978 live at Garçon, Osaka. Stereo.
6. Akai Asagohan: fade in - end
:Geso(ac-g), Onnyk, Yasei(el-g).
Recorded 30 December 1978 at Geso's room, Kyoto. Mono.
7. Scepticism / Rasen-kaidan: cut in - fade out
:Jojo(syn), Sophie(el-b), Ishida(ds), Tone(el-p), Geso(el-g), Yasei(per). Recorded 29 August 1978 at Jujiya Uzumasa Studio A, Kyoto. Stereo.
8. from the solo performance / Takafumi Sato: fade in - cut out
:Sato(p, org, el-p, syn, drum, cymbal, voice, howling, el-g, drainpipe)
Recorded 4 February 1979 at Minor, Kichijouji, Tokyo. Stereo.

Dai5retsū Tape 5C-00 (Omnibus Tape)
Produced by Dai5retsū
1st issue: March 1979
Made in Talerica, Japan.

第五册

SIDE B

1. DNA (Dynamic Noise Association) / Home Made Noise: fade in - fade out
:Kodama, Soncho, Onnyk, Soukawa, Fujisawa(syn, per, mandolin, junks).
Recorded July 1977 at Onnyk's room, Morioka. Stereo(over-dubbed).
2. Barom Cross / Kazuki Kitamura (percussion solo)
:Recorded 1978 in Shizuoka. Mono.
3. Goretzu-bushi / Kouichiro (synthesizer solo)
:Recorded 2 December 1978 at his own room, Kyoto. Mono.
4. Maco-chan / Jojo (recorder & junks solo)
:Recorded 9 December 1978 at Jojo's room, Kyoto. Stereo.
5. Fan Bennink (Part 2) / Yasei (el-guitar solo)
:Recording data - same as B-4.
6. A Secret with One Chord (An Eno-ic Expression à la Paul Mauriat) /
Seiichi Nakatsubo (el-guitar solo)
:Recorded January 1979 at his own house, Morioka. Stereo.
7. King-Kang / Toshifumi Kodama (bottles solo): fade in - fade out
:Recorded Autumn 1978 at his own house, Morioka. Stereo(over-dubbed).
8. Untitled / Tou: fade in - end
:Kudo(el-g), Nonomiya(el-p), Yoshiwara(syn, lid of a piano, bottle, cup, magazine).
Recorded 14 December 1978 at Minor, Kichijouji, Tokyo. Stereo.
9. Call & Responce to Bainorutokauntona o jiku to shita Remasionto-teki
Danpen / Tatsuo Nakashima: intro - fade out
:Nakashima(org, voice, noise, odds & ends).
Recorded June 1976(right channel) & July 1976(left channel); Remixed
15 January 1979 at his own room, Tokyo. Stereo.
10. Untitled - Untitled Medley / Chihiro Abe (synthesizer solo)
:Recorded 1974 at his own room, Morioka. Stereo(over-dubbed).
At-random-edition of 'Untitled Medley' by Onnyk.
11. Automatic Music / Event Accident
:Hiroto Koyama(noise of AM tuner, effector).
Recorded July 1978 at his own room, Tokyo. Mono.

Side A

1 <"Bide Garage Concert"より>

"Bide Garage Concert"は京都在住の有志スタッフ五人により、京都のBide自宅ガレージを借りて、1978年4月から12月にかけて、ほぼ月1回のペースで計7回行われた。(他に特別企画として喫茶店を借りて行なったシード・コンサートも一度行なっている)。Bideの「シンセサイザー・ソロ・コンサート」、テープ・テレビを用いた「エコロカル・ミュージック・イベント」、^{音楽}音楽の映像会、フリー・セッション等、種々の試みがあったが、参加者数はおしなべて少なく、この種のマターかつ自発的・実験的イベントに対する反応はまあまあ冷い、という事実と受けとられる事となった。

当テープに収録された演奏は3回(「エコロカル・ミュージック・イベント」)の4番目のパフォーマンスの一部であり、全体にエコー・マシンによるエコーがかけられている。「ムード・ドラム・リズムのたぎる演奏である。」

2. <Gesoと園田による即興演奏>

Gesoのコメント「僕にとって、全ての『書かれた音楽』は抑圧的で窮屈だ。それに対して『即興演奏』は演奏者自身に最大限の自由を保証してくれる。園田は《ハウドックス》という即興ロック・トリオの一員で、主としてドラムス、パーカッションを担当している。当テープに収録された演奏は2人が初めて共演した時のものである。「うるさい演奏である。」

3 <Za-Bootonesの即興演奏>

"Za-Bootones"はテープに記されたメンバーによるセッション・グループに仮に与えられた名称である。当テープの演奏はもちろん何の意図もなくあのうろに録音されたものである。「美しい演奏である。」

4. <園田佐登志の疑似演奏>

1979年2月7日午前0時頃自宅台所で録音。園田氏はここでバックグラウンドに録音済のテープを流しつつエレクトリック・ギターを鳴らしている。録音は電気掃除機のパイプを通して、音を出している反対側の口でマイクで拾われる。パーカッションのような音はこのパイプをたたく音であり、Gesoが行なっている。

5. <"Ultra Bide"の演奏>

"Ultra Bide"はBideが中心となって結成した「パンク・バンド」である。がセッション・グループに近い性格のもので、こういうグループがパーマメントにパフォーマンスを行うようにならなかつたのは幸いなことだ、と語ることに我々はやぶさかではない。当テープの演奏は彼等の最初のギグであり、Outsider主催・「神経切断!」というタイトルのコンサートにおけるライブ・録音である。「やかましい演奏である」

Bideのコメント:「今の頃は、即興をしたり、パンクをしたり、アログレッシングなどをやったりしている。それは単に、やりたいと思う行動が太切だから。結果は問題ではない。音を出している時の思考性が一番太切であり、そのことをエッセンスとして出している。」

6 <Gesoの自室におけるセッション ワークより>

Onnykのコメント「うーん、たかろ... そのあ『即興』っていうのはあ... えーと、そのおんなだ、あれだ、うん。つまりネ『真似』じゃないんがす。いや... たかろあ、えー、うーんと、まあ『でたらめ』でいいんじゃないか... なんてネ。まあ、えーっと... (続く)」

『赤い朝ごはん』とは沖野列の手になるアンチロマンの傑作小説のタイトルである。

7. <「螺旋階段」による即興演奏>

「螺旋階段」のオリジナルメンバーはJojoとSophieのみで、彼等以外はセッションメンバーである。彼等はこのテープの他の録音にも参加している。JojoのコメントがSide Bの4についているのでこちらも読んで欲しい。「けたたましい演奏である。」

8. <佐藤隆史のソロ・パフォーマンス・Part 1より>

佐藤氏(の・に)(一・自)問(一・自)答

—Q その日の朝、何を食べたか?

A: Minorで おにぎりを食いました。

—Q 演奏する前に出た大便の色、かたち、かたさ。

A: 大便はしばらくしてないので詳しく覚えていないが、たぶん酔っぱらった時にベチャベチャの水フンをしたと思う。

—Q ハチに刺されたことは何度ぐらいありますか?

A: 一度もありません。(ハチを見たことはありますが、さわったことはないです。)

—Q 嫌いな道具はありますか? それは何ですか?

A: 道具に対しては呪物としてのとらえ方しかできないので、ほとんどのものが好きです。嫌いなのは葉とか(これは道具ではないか?・原註)電話ですな。

—Q イノキvsアミン戦に関して何か...

A: 状況は常に大衆のもですな。(例: ヤキニク定食)

佐藤氏のコメント: 「貸ホール「マイナー」(昼五時開演、夜一八時開演)の場での持主のパフォーマンス。ひたすら快感であること。のんびりしていること。シブシブ知らない奏者がObscureとGAPを聞いたために「ハキ」を失った様に感じることとを意図している。」

Side B.

1. <“Home Made Noise”による疑似即興演奏>

“Home Made Noise”は盛岡市(イフケン)に在住するOnnykを中心とした数人の友人達によって不定期におこなわれている即興的なセッショングループである。参加しているメンバーは全く演奏に興味の無い(無かた)人や、何ら音楽の専門教育をうけていない人達ばかりで、しかも流動的である。おまけにまたモナ楽器にも事欠くありさまで、要するに「知らぬ同士が、小皿おたいてチャンキ即興」といった様子なのである。

この録音は、はじめに、そういった類のかうくたや、肉体から作られた音を録音しておき、後にそれをシンセサイザーで模倣するという試みである。

2. <北村一樹のパーカッションによる即興演奏>

北村氏は突然、何のコメントもなくテープを送ってきた。彼について詳細は不明だが、彼の文章が「オモコロ号」(創刊オ二号)に載っている。一体全体何を考えているのか……

3. <コウイチローによるシンセサイザー・ソロ>

コウイチローによるコメント:「私はビデオ・ゲームやモンホール・マシンの上の『今日の最高行進者』のカードに名前が書かれること、ある種のテライを持ちながらも、非常に喜びとしている。特に最近の音階の出るオシレーター内蔵のマシンは、あらゆる意味でオモシロイ。ゲーム・センターに行く時はテープ・レコーダーを持参する。自分のプレイを録音して、後でプレイバックしたり、編集したりすることは、サン・ラのシンセサイザー・ソロを聴くくらいオモシロイ。演奏時間が長ければ、長い程、得点も加算される。だからといって、ヒ・スレットやハイライトがもらえる訳じゃない。何というバカバカしくて、ムダな作業だろう!」

4. <Jojoのリコーダーとカラクタによるソロ>

Jojoのコメント:「ぼくの音は、ぼく自身の内なるぼく自身です。特に即興に於ては、ぼくよりはなれた音は、ぼく自身に対して素直である音です。……『ためな人とためでない人のために』」

Jojoは「どら、ぐすとうあ」のスタッフでもある。Dベイリーと石野真子と敬愛している。

5. <野性のギターソロ>

野性のコメント:「私はハン・ベニク様のファンです。ベニク様の為なら何でもします。ベニク様の為なら汚いものはありません。ベニク様の為なら何でも欲しい人です。……もしイレ・ネ・ショヴァイツァーに関して少しでも御存知の方がいच्छやいまして、御知らせ下さい。どんな事でも結構です。」

(野性の言っている「ハン・ベニク様」というのはあのJ.C.P.のベニクのことである。同様に、ショヴァイツァーとはあの土人の病気を直した人の事では無いであろうである。)

野性は「どら、ぐすとうあ」のスタッフであり、かつてはハードロックバンドでドラムスやベースを鳴らしていたという。「へえ〜」

6. <中坪によるホルモーリア的「イノ」のカラオケ>

中坪のコメント:「私のスローガンは『人類に夢を。家庭に愛を。私に富を。』である。」

中坪はここ数年、一人で音の楽しさを追求してきた。今回のテープの作品は小品であるが、彼の音の全てを伝える事はできないが、次回テープ「SC-01」では、また彼の別な面を見せてくれる。

7. <小玉の空きビンによる即興演奏>

小玉のコメント:「適当にデタラメにビンをたたいて音が出たものを、そのとおりテープにとって、ちよと校正したものだ。Légong dance^(註)の雰囲気分で作ったよ。」(註:カムラン音楽のレコードにあるタイトルのひとつらしい。)

「御家庭で手軽にできるカムラン・ミュージック」とでも言いましょうか。小玉はホームメイドノイズ(B-1参照)の良き協力者でもある。

8. <グループ"透"による即興演奏>

透からのコメント:「即興演奏として名付けられるものは決して一様ではなく、---(略)---
 ...それ以上に問題となるのは、参加者たる一個人のアンサンブルに対する考え方である。大きく分けて①事前のとり決めにたよるすに、アンサンブルを「音楽」として成立させる事—各人の技量、道徳をはかり(相手かいかは暗黙の了解として成立する基本線に近づき得るかという点を尺度として)相手を選択するための即興。②事前のとり決めにより、(あるいはよろすに)一定の基本的ライン、あるいは顔ぶれから「そうなりそうなる」音に反発し、あていかに自己主張しうるか、という点か問題となる即興。③---(略)---④結果としての音楽的効果又は価値を全く無視して(あるいはきせいでしても)お互いの有をやてまかすため事を約得しあてやる即興⑤---(略)---

今日のテープにおける即興は④に近いが、実は全く逆でそれぞれのおもむきを持って参加した教人が全く意見調整も連絡もなく全く個人の思った通りにやること。それか少なくとも僕の考えなら、---(略)---ここではあててる方が失敗なのだ。---(略)---

蛇足ながら僕はその後ひとくうりまわって他の二人に口もきいてもうえなくなったのは理念的には成功といえるのかも知れない。」(吉原)

いやはや又変なキのである。耳には聴えぬ苦勞もあるものだ。

9. <中島による「コール&レスポンスとバイフルトカウンティングを軸としたマシオント的断片」>

中島からのコメント:「左右のチャンネルはそれぞれ別の日に録音されたものです。左チャンネルの録音の際の技術的ミスにより、右チャンネルが残っていた訳で、このようなテープを製作する意志は当初、製作者には全く無かったのであり、そういった意味では製作者は他ならぬ偶然であるといえると思われず。」
 なる程。(ト、一同うなづく。)

10. <阿部によるシンセサイザーの作品1つと断片1つ>

阿部氏がかなり以前に作った作品を録音していたテープからの抜粋である。最初の曲は、バネ式の小さなエコーボックスを使って録音している為、音質が今一つである。次の曲(?)は、阿部氏のテープに入っていた習作を Onnyk が編集段階でデタラメにカットアップでつなぎあわせたもので、阿部氏の本来の意図とは全く無関係である。後半 びばるでいの「四季」の「春」の部分があらわれるがこれだけちぎっても「何の曲であるか分る」というのは、いかにはこの曲が有名であるか、(2)特徴的なフレーズであるか、(3)阿部氏が苦心してタビシグしたか、がよくわかろうというものである。阿部氏は現在、ウイオラで「演歌」を奏する事にたいへん努力をすっている。そしてそれはかなりな成果をあげている。

11 <"Event Accident 7711"によるオートマチック・ミュージック(民生用)>

Event Accidentのメンバーである小山氏の手になる作品である。小山氏の言によれば「誰にでもできるシステム・ミュージックとしてAMのノイズにエフェクターを通したモノ」との事。ここでは一部しか入れられなかったが、この作品はテープでは30分にもなるもので、はじまりも終わりもないのである。また、同じテープにもう一つ同様の作品「Home Drama」(バック・フェアリーによる)が収められており「バック・フェアリーの曲とミキシングしてある。チューナが安物だった為、手をふねなくとも自然にチューニングがずれていった」のだというのである。こちらでは朝鮮放送が聴こえたりする。作品のタイトルに「民生用」と書いてあるが、これは筆者には何のことか分らない。どなたか解説して教えてほしい。あるいは、その通りに受けとるべきなのだろうか? いや、しかし……。

以上で、5C-00によせられた作品群の、あるいは演奏者の紹介を終る。これらの作品は皆、抜粋であたり、長い作品のごく一部であるものが殆んどである。また、演奏者の殆んどがいちゆるドシロウト、トーンロー、アマ、非音楽家、非ゲージョウカ、オンチ、バカ、アホウ、ドウアツなどであるため「一貫した印象を与えない」という点においてはまさに完ペキの域にあると言えよう。そしてまた、これだけ多種多様な作品群が集まったというのも珍しいと言える。これらの「音」を何か一つにまとめて呼びならわそうなどという気は毛頭ない。また不可能だ。このテープの意味をなして語るならば、おそらく「今、その演奏者のある場所を示すカタログ」という事になるだろう。そしてもしこれが「音」のカタログおとしたら、単なる手引き、あるいはインデックスでしかない。先程も書いたが「長い演奏」のごく一部をあまり作為なく切り取ってきたものが多いのだ。だからもし今、テープをきいて、これを読んでいる「あなた」が(順序はどちらでもよいが)、どの部分でもよいから興味を持った部分があれば、是非、次は「あなた」も参加して欲しい。オ五列では、これからテープを、本を、あるいはフィルムを、オブジェを、排泄物を出しつつ歩いていくつもりだが、別にそれをいちゆる「芸術的完成」なんかを高く掲げていこうなどとは思っていない。(むしろ、「行為者としての深み」にはまって身動きとれなくなるまで、うごめきつつかけたいなんて事は思うが...) 片手間にやっていくことではあるのだから。朝飯前に片付けることではあるのだから。もし、うけが、いけ、なるは、……。オ五列ではマッスに訴えていこうとは思えない。ゆくり、じわじわと1人1人か、カン細胞になるように交流を保っている。我々はさうなる相互干渉を期待している。編集責任者 Onnyk 79 Tibet in Japan.

まさに彗星の如く登場 これだけは聴いておきたい

NOW
PRINTING

第五列： はメローにたそがれる…。

新しい音楽を創造するための第1歩。

への招待

静かに烈しく

鋼鉄のような

ラブ・ミュージックを美しいメロディーで クローズ・アップ

これが話題の 即興名演奏集

遂に発売決定!

若い血潮がたぎる

華麗にデビュー

愛と涙の感動の名曲集

演奏も録音も超一流

オムニバス

ビッグ・キャンペーン 絢爛

世界初録音

身体の中には燃えたぎる 寿命 気をつける!

堂々完成

予約受付中

お子さまの夢を大きく育てる

不滅のショック!!

自信を持っておすすめします。

選り抜きの

新風 もりもり

を満載、



第五期

の

テープ !!

* 第五列テープ第1弾 5C-00 (omnibus tape) 90分カセット ¥700 (送料共)
* 空テープを送って頂いても結構 (ダビング無料) 返信用切手同封のこと (¥140 分)
* 申し込み先 (第五列へのあらゆる問い合わせも受付けます) 〒020 盛岡市中野 1-10-31 金野吉晃 (phone 0196-52-4673) 又は 〒166 杉並区高円寺南 4-41-7 氷川荘 2 号室 藤本和男 (phone なし) 或いは 〒602 京都市上京区御前西入ル大東町 103 広重嘉之 (phone 075-463-7723) のどれでも OK

* Also 5C-01 "The Shameful Parts of Deep Purpline" (45min cassette ¥400) has just relised.

